

平成30年度ふれあいトーク議事録(八代地区)

日時 平成30年8月18日(土) 14:00~15:30

場所 八代自治会館

出席者 八代地区住民 27名

市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、建設部長、教育次長、消防長、防災危機管理監、農林畜産課長、事務局6名

質問の内容	回答
<p>1 小滝地区 男性 昨年、大雨で県道水見田鶴浜線の道路が被災し12月23日から通行止めになった。八代農協から角間~小滝の県道・市道が迂回路になった。その影響で、村木、小滝の市道の交通量が増えたせいか、道路舗装が割れ、今は鉄板を仮に引いたままになっている。舗装はいつ行われるか。</p>	<p>建設部長 道路の破損箇所については、現地を確認し状況は把握している。市の方では9月補正予算を計上し、その中で傷んでいる部分を補修していきたい。</p>
<p>2 胡桃地区 男性 毎回お願いしているが、有害鳥獣の駆除をもう少し抜本的に考えていただきたい。いろいろやっているが数は減らず、被害が増大している。 一番困るのは、(イノシシが)道路横の崖を崩して側溝を埋め、水を止めてしまう箇所が増えている。(地域で復旧作業をしようと思っても)年寄りばかりになっているので、側溝の土を上げるのも大変である。 効果的な方法で(有害鳥獣を)早急に駆除しないと、アオサギ、イノシシ、狸、ハクビシン、ムジナが増加していく。今までのやり方では減らないので、毒殺が一番いいと思う。生態系への影響もあると思うが、現実に生態系は変わってしまっている。もう少し(効果的な駆除の方法)を考えて欲しい。</p>	<p>農林畜産課長 今年度の(イノシシの)捕獲状況について、7月末時点で664頭を捕獲。8月17日までに924頭を捕獲している。昨年度7月末時点の捕獲数は259頭であり、今年度は昨年度に比べ捕獲数は増えている。(市としては)一生懸命(イノシシの)捕獲に力を入れている。 (イノシシの)掘り起こしによる崖崩れについては、本年度、西日本農業研究センターに調査を委託し、掘り起こし対策を中心に研究して貰っている。どういった対策が有効なのか検討していきたい。 (有害鳥獣の)捕獲以外の駆除については、どういった方法があるのか検討していきたい。</p>
<p>3</p>	<p>市長 地元、鞍骨でも私が生産組合長の時に、檻を独自に購入し3つ設置し、一昨年は25頭、昨年は35頭ほど捕獲した。毒による駆除については、生態系に影響するので県で許可は出ないと思う。 昨年知事要望では、ブリの発信機調査のように、イノシシにも発信機を付けて生態系の調査をしてはどうかと伝えた。その中で「海の定置網ならぬ山の定置網を設置しイノシシを丸ごと捕獲できないか。」といった冗談を言ったこともある。 どうやって(イノシシを)駆除するか。今までは、どちらかと言えば電気柵や金網メッシュで農地や地域を囲み(イノシシが)入らないようにする対策だった。(イノシシは)一度に5頭ほど子どもを産むが、檻を仕掛けても、親のイノシシは警戒心が強くなかなか捕獲できない。代わりに子どもが檻に入っている。しかし親イノシシは、子どもいなくなってしまうとすぐに妊娠してしまう。1頭の親イノシシが年2回産むこともある。駆除もしっかりやっていきたいが、方法としては檻が今のところ有効だと思う。檻を設置する要望があれば、どれだけでも檻の支援を行う。地区でも駆除に協力していただきたい。</p>
<p>4</p>	<p>防災・危機管理監(前農林畜産課長) 今ほどの市長の話を補足させていただきたい。昨年まで私は農林畜産課長としてイノシシ対策をさせていただいた。 お話のように当然駆除・捕獲も大切だが、「捕獲」と「(イノシシが)来ない環境」を合せて作る事が大切である。この集落もいっぱいあると思うが、誰もとらない栗や柿が(イノシシの)冬のえさになっている。それがイノシシが集落に来る原因である。イノシシを田、畑に入れない。放任果樹は残さない又は採りきる。そういった対策が(捕獲と)合せて必要である。そうしないと、ずっとイノシシは集落に来る。このことを頭に置いていただきたい。</p>

	質問の内容	回答
5	<p>男性</p> <p>昨年、県道氷見田鶴浜線の道路災害の際、石川県側から帰宅しようとしたところ、芹川の交差点から30mほどの所で、「富山県には行けません」と書かれた通行止めの案内看板があった。なぜその際、小滝からの迂回路の表記がなかったのか。小滝から胡桃に抜ける道にも「富山県には行けません。」としか書かれていなかった。県外の人困っていた。</p> <p>今後の道路災害の際には、通行止めの表記だけでなく災害場所および迂回路をしっかりと書いて欲しい。</p>	<p>建設部長</p> <p>県道氷見田鶴浜線が通行止めとなり、周辺の市道を迂回路に使用していた。市道を迂回路にするにあたっては、県道が通行止めになったため富山県と氷見市で協議し、案内看板についても十分に対応できるよう話をしてきた。しかしお話のように(迂回路等の)案内看板が無かった件についてはご迷惑をおかけした。申し訳ない。今後十分に気をつけたい。</p>
6		<p>市長</p> <p>今ほどの件。おそらくが石川県側からの県道の通行止めの際し、富山県の氷見土木事務所から石川県の羽咋土木事務所への連絡時に、「通行止め」の情報だけが重要視され、「富山県には行けません。」しか書かれていない案内看板になったと思われる。</p> <p>富山県の土木事務所には、道路を通行止めにする際には、迂回路の有無もあわせて(隣県に)連絡するように伝えておく。今回の件は、県が異なっていることで起きたこと、今後改善できるよう反省材料として富山県には話しておく。</p>
7	<p>村木地区 男性</p> <p>自宅近くに防災無線スピーカーがある。大雨等の時に放送されるが、全然聞き取れない。「こちらは氷見市」しかはっきり聞こえない。それと時間ごとになるチャイム、これも雑音が入ってわからない。</p> <p>何のための放送なのか。せっかく設置したのなら、もっとはっきり聞こえるようにしてほしい。</p>	<p>防災・危機管理監</p> <p>氷見の各地区から同様のお話は頂いている。氷見市の地形が様々であり、順次、お声をいただきながら(スピーカーの)調整をしている。なかなか100%には遠いのが現状である。</p> <p>災害時、(スピーカーからの)警報の放送が聞き取れなかった場合は、テレホンサービスもある。そういったものを利用し、情報を入手していただきたい。また放送も聞こえやすくなるように業者と連携し調整を行っていききたい。</p> <p>この機会に防災行政無線のテレホンサービスの番号もお伝えしたい。番号を控えていただけませんか。</p>
8	<p>同男性(防災・危機管理監の回答に対して)</p> <p>以前、テレホンサービスの番号は各家庭に案内してある。(放送が聞こえない場合テレホンサービスに)掛けて直せば良いということではない。緊急の場合、電話を掛けられないこともある。</p> <p>可能であれば(放送を)聞き取りやすいようにしてほしい。市の言い訳を聞きたいわけではない。昔から防災行政無線の放送に関しては、聞こえにくいと市に要望し、かなりの時間が経つ。防災ラジオの配布等は進んでいるかもしれないが、ラジオも聞こえにくい。防災行政無線も防災ラジオも聞き取りにくいのでは意味が無い。なんとかしていただきたい。</p>	<p>防災・危機管理監</p> <p>調整する業者とも話をして進めたい。</p> <p>西日本豪雨の際も、現地では(放送が)聞こえなかったという声も聞いている。危ないと判断した場合は、テレホンサービスを利用し、(自主的に)情報を入手していただきたい。</p>
9	<p>別の住民</p> <p>アナウンスの人には申し訳ないが、男性の声はまだ聞きやすいが、女性の声は聞き取りづらい。大事なところが聞こえない。</p>	
10	<p>村木地区 男性</p> <p>除雪までに、市道の凸凹を直してほしい。思わぬ事故や災害の可能性もある。本当は道路をパトロールしていただきたいと思うが、いつ頃までの道路の補修や除雪の計画を立てているのか。</p>	<p>建設部長</p> <p>道路の凸凹については、道路課で月2回パトロールし、危険箇所等は調査している。</p> <p>除雪については、毎年除雪計画を立てており、今年度の除雪業者をどうするか等の準備も進めている。除雪前の道路の補修要望については、皆様からの情報等をいただき、対応していきたい。補修時期については、その都度対応している。除雪計画は10～11月には完成させたい。</p>

	質問の内容	回答
11	<p>吉滝地区 男性 春に市長室トークに参加し、主に新文化施設のお話をさせていただきました。</p> <p>市長は、胡桃の地すべりで、土木に関心を持ち、県庁で土木部長だったということを伺った。最近、イタリアの高速道路が崩落したが、インフラの老朽化の中で市の管轄する公共施設で点検・補修計画はあるのか。</p>	<p>建設部長 道路構造物の点検については、国から5年に一回、実施しなさいという通知が出ている。</p> <p>氷見市においては、橋については、昨年度で全て点検が完了している。現在、その結果に基づき順次補修を行っている。</p>
12	<p>同男性 昨年、市長は台湾視察へ行っている。目的はインバウンド、台湾の旅行客を氷見に呼び込みたいということだが、総勢13名。それだけの経費と日数をかけて、現在の状況はどうなっているのか。また観光客が来ても、観光と水産に恩恵はあっても、中山間地に直接的な恩恵はないと思う。片手落ちではないか。「一人ひとりが未来をいどるピース」というスローガンでやっておられる以上、市街地、中山間地の住民が区別をなくしてあげられるような事であれば、皆さんの理解を得ることができると思う。</p>	<p>市長 台湾インバウンドの成果については、昨年8月に堂故参議院議員、菟田県議会議員、氷見市観光協会等含めてオール氷見で誘致を行った。台湾政府の事務総長に会い、台湾で一番大きな旅行会社へ行って、氷見ツアーの作成をお願いした。昨年10月に(台湾より)2人来てもらい、4日間、あいやまガーデン、セイズファーム、番屋街、べるもんたを回ってツアーを検討いただいた。その後、半年間で、その旅行会社を通じ200人ほど氷見に来てくれた。</p> <p>その他としては、今年1月には呉西6市の市長がシンガポールへ行き、観光PRを行っている。観光する際、氷見市だけで3、4日滞在するということは考えづらい。他の市も含めた観光PRが有効である。昨年の氷見市の外国人宿泊者数は29%ほど増加しており、年々増加している。</p> <p>中山間地に直接恩恵はないとお話であったが、例えば、(外国人観光客が)氷見に来れば、お米等の農産物をはじめ、いろいろな消費が拡大し、回り回って氷見市の経済の活性化に繋がる。</p> <p>氷見市の人口が減少する中で、氷見市の商品を誰に買ってもらうか。それは国内外を問わず交流人口を増やし、氷見のものを食べ、買ってもらい、消費を拡大し、生産者が成り立つ(経済の)循環を作っていかなければならない。</p> <p>2050年には、日本の人口は24%減ると言われているが、世界人口は32%増加するとされている。国を挙げてインバウンドをしっかりとやっていくこと、外国人旅行者に氷見市に来てもらいたい。</p> <p>今年も氷見市にドイツの少年団やライオンズクラブでイタリアの方が来る等、国際交流が進んでいる。多くの外国人に来てもらい、氷見の名前を世界に溶け込ませていくことが大事だと考えている。</p>
13	<p>男性 大学連携推進事業は農業関係か？富山県下の大学に農学部はないと思う。新規事業を行う上で連携だけでなく、少子化で難しいとは思いますが、氷見市への農学部の誘致については考えられないか。</p>	<p>企画政策部長 今回の大学連携事業は、名古屋の名城大学農学部と連携協定を締結し、農学部と氷見高校との共同研究や、企業を交えての六次産業化といった農業振興に取り組みたいと考えている。</p> <p>北陸に私立の農学部がないとはいえ、名城大学農学部そのものを持つことは難しいと思う。連携を深めて名城大学の研究室を氷見に置くといったことも検討していきたい。</p>

	質問の内容	回答
14	<p>胡桃地区 男性 イノシシばかりで申し訳ないが、電気柵をいただいて8年経過し、器具の故障、所々断線もし、通電しなくなっている。そのためイノシシが電気柵の下から潜って入ったり、上から飛び越えて入ったりして、電気柵の効き目がない。また胡桃で生まれたイノシシは人間が2mくらい近づいても逃げなくなっている。</p> <p>電気柵の寿命もきているので金網柵の導入を検討している。対雪型の金網柵を研究している。しかし(イノシシによる)被害額がないと国庫補助や市補助を受けることができない。被害額はいくらであれば、補助の対象となるのか聞きたい。</p>	<p>農林畜産課長 電気柵については、8年経過したものは申請いただければ新たに補助はできる。フェンス(金網柵)については、被害額ではなく、農地を守るものであれば、市に補助を申請していただければ大丈夫だと思う。 フェンスの張り方については、土地の形状に応じ、いろいろなやり方がある。市としてもどれが本当に効果的かは、まだ不明である。今後の検討課題としていきたい。</p>
15	<p>同男性 2点目に、(イノシシによる)掘り起こしについて、農道は市の協力で舗装したが、その付近を(イノシシが)掘り起こし、コンクリートの下まで掘ってしまう。そのためコンクリートが割れ、トラックが脱輪、転落事故が発生した。今年も(農道が)100mほどの被害があった。そのため業者に重機で土を引き上げ、叩いてもらったが相当高額だった。こういった被害に対する補助事業はあるのか。(業者に工事費を)払い終わったが、来年も(被害は)あると思うので教えてほしい。</p>	<p>企画政策部長 今ほど説明した以外でも地域活力施設整備支援事業で、(地域の)側溝の整備に関して、1/2補助で補助限度額50万円のものがある。担当の地域振興課に相談していただきたい。(地域振興課長:ぜひ相談いただきたい)</p>
16	<p>胡桃地区 男性(農林畜産課長の回答に対して) 電気柵については、イノシシが学習してしまいポールとポールの線の間を潜り抜ける。何をしても潜り抜けてしまい効き目がない。 そのため金網柵の導入を検討している。市の補助については分かったが、国庫補助についても調べていただきたい。</p>	<p>防災・危機管理監(前農林畜産課長) 胡桃地区は、かつて国の補助で前年度被害に応じ費用対効果として電気柵が採択されたもの。ワイヤーメッシュ(金網柵)の場合、全国的にどこも困っているが、(国の補助を申請する場合)費用対効果をどのように算出するかについてハードルがある。これは市のほうでもいろいろ検討する必要があり、すぐにはお答えできないだろう。 市補助については、集落ぐるみの恒久柵なら1/2補助で上限100万円、合せて(農業)共済組合の補助も入るはず。詳細なところは変わっているかもしれないので、調べていただきたい。</p>
17	<p>胡桃地区 男性 事業費について氷見市で1/2補助とあり、非常にありがたい。しかし小さい部落は1/2補助してもらっても、残りがなかなか出せない。 今回胡桃で掲示板を作り補助してもらったが、今の補助制度では、補助対象事業費の上限100万円の半分50万円を小さな部落でどうやって負担するか難しい問題である。(市には)地域の状況に応じた対応ができないのか考えていただきたい。</p>	<p>地域振興課長 (地域活力施設整備支援事業では)補助については最高50万円までだが、1/2は地域でご負担いただいている。小さな地域では1/2の負担が厳しいという話はわかる。 市としても決して杓子定規に対応せず、今のご意見を元に、(補助の)組み立て方法や、別の補助制度を検討することもできる。今すぐに回答することはできないが、ご意見を持ち帰り予算編成時に検討したい。 使い勝手のいい補助制度、地域の皆さんのための事業を練っていききたいので、ご意見をいただきたい。</p>
18	<p>胡桃地区 男性(地域振興課長の回答を受け) 事業費の金額の話が出たので、今の電気柵15kmを金網柵に換えると、材料費だけで概算1500万円かかる。半分を地域で負担するとなると100年かかる。半額助成もわかるが、検討をお願いしたい。</p>	<p>地域振興課長 今ほど説明させていただいた補助事業については、農地は含んでいない。農地については、農林畜産課長が説明したような県や国の事業で対応できるか検討いただくことになると思う。</p>
19		<p>防災・危機管理監(前農林畜産課長) 延長を考えると、一度では無理な距離である。市内のある地域では延長7kmのところがあり、計画的に毎年1kmほどずつ5年間の設置を行っているところもある。定期的な補助としては、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金を複合して(金網柵の設置に)活用している地域もあるので、参考にしてほしい。</p>